



「ねいの里」 開園 40 周年記念特集

開園 40 周年を迎えて 前館長 富永宣宏

富山県自然博物館ねいの里は、今年 6 月に開園から 40 年の節目を迎えます。

この施設は、昭和 56 年 6 月に、「身近な自然の再発見」をテーマに、県民誰もが、自然に親しみ、学べる場として、展示や自然解説を通し自然への興味、関心を高め、自然を愛し守り育てることを目的として建設されました。この時期から、里山保全の重要性や身近な自然への興味関心が急速に高まり、全国に類似施設が多く建設されるようになりました。

この 40 年間にフィールドも大きく変化しました。建設当初は、尾根部にはアカマツの林が広がっており、コナラも背の低い木がほとんどでしたが、現在ではうっそうとした林になっています。林が変化してくるとともに、園内に生息している動植物にも変化が見られるようになってきました。

また、里山保全が叫ばれるようになってから、植生や植物とともにそこに生息している動物保全の考え方も重要視されるようになってきました。

このような考え方から、ねいの里でもビオトープを造成し、ホクリクサンショウウオやミナミアカヒレタビラなど、絶滅が危惧されている動物の保護に取り組んできました。

利用形態も、建設当初に比べれば変化してきました。

この施設のターゲットは、主に小学校高学年から中学生で、里山の自然を使っての自然教育、環境教育を実践することを主眼としていましたが、近年の利用は小学校低学年、幼稚園・保育園の利用が多くなってきました。そのため、利用者のニーズの変化に伴い、展示や行事内容もニーズに合ったものになってきています。

このような、時代の流れとともに変わってきたねいの里の一コマ一コマについて、館内では今年 1 年を通して写真展形式で紹介しますので、ぜひご覧になってください。

「ねいの里」40 年の思い出写真(開園当初)



真新しい園舎でテープカット



若かりし頃の湯浅元館長(左)

「ねいの里」40年の思い出写真

館内に残る写真の一部を紹介します。(撮影順不同) 懐かしいと思われる方は・・・



開園当初の子供たち



中央階段とスロープ



展示館と事務棟



鳥獣保護センター(開園当初)



展示館とその導入路



バットハウス(建設直後)



整備中のカタカゴの丘(H18年)



いこいの村水生園(当初名称)



建設予定地(事務所付近)



建設中の炭焼き小屋(H15年頃)



焼いた炭を浄化用に



サンショウウオの託児所

「ねいの里」の思い出ショットがありましたら、御提供いただけませんか。詳しくは、ねいの里までご連絡ください。

Tel;076-469-5252 / メールアドレス;shizen@toyamap.or.jp



発行 富山県自然博物園ねいの里 館長 小杉 啓一
〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>